

かすが



臨時号

すべての子どもが 仲間とともに いきいきと学べる 春日小学校

2学期末、保護者の皆様には学校教育に関するアンケートにご回答いただき、ありがとうございました。今回は、延べ246人(家庭数で換算すると74.6%)の回答がありました。

今回、保護者の皆様に回答いただいた結果を分析しましたので、お知らせします。

アンケートから見えた3つの柱

⇒ 摂るぎない「安心感」、評価される「教育実践」、そして、「未来への期待」



強固な基盤 子どもたちの安全・安心な学校生活が、保護者の皆様から最も高く評価されています。学校が「安全・安心」を最優先しているという信頼は、9割を超えてます。



確かな信頼 教職員の熱心な姿勢や分かりやすい授業づくりは、約9割の保護者から支持されており、本校の教育活動の中核を成しています。



伸びしろと可能性 子どもの主体的な学びやタブレット端末等のICT活用といった比較的新しい教育実践については、その内容がまだ十分に伝わっておらず、今後の発信と共に保護者の皆様の期待が寄せられています。

テーマ別分析① 子どもたちは、学校を楽しみ、安心して過ごしている。

「安全・安心」が本校の最大の強みです。子どもたちが、日々、前向きに学校生活を送るための土台が、保護者の皆様の信頼のもと、しっかりと築かれていることがデータにも表れています。

Q12 子どもは、安心して学校生活を送っている



Q18 学校は、子どもの「安全・安心」を最優先に



Q1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている



ただし、Q1について、1割(約40人)の子どもたちが、「学校にいくのを楽しみにしていない」という現状があります。児童アンケートでも、約9割の児童は「学校に行くのが楽しい」と回答していますが、約1割の児童は否定的な回答です。今年度も力を入れて取り組んできた「授業づくり」や「仲間・集団づくり」をより充実したものになるよう、これからも取組を強化していきたいと考えています。すべての子どもにとって「わかる」「楽しい」等、子ども自身が意欲的に、そして主体的に取り組める授業づくり、「わからない」「教えて」と、間違っても、分からなくても仲間や友だちと一緒に安心して学べる集団づくりをするとともに、子ども一人ひとりを大切にし、誰もが安心して楽しく登校できるよう、取組を進めてまいります。

テーマ別分析② 教員の熱意と分かりやすい授業が高く評価されている。

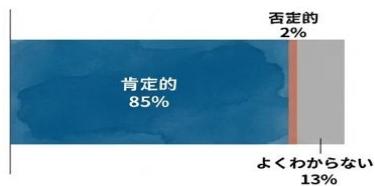
Q5 先生は、わかりやすい授業づくりに努力している



Q3 先生は、子供の意見や考えを大切にしている



Q7 友だち同士で交流し、考えを広げる場面がある



保護者の皆様は、子ども一人ひとりに向き合う教職員の姿勢と、授業の質の高さを実感してくださっています。特に、分かりやすい授業づくりへの努力や子どもの意見を尊重する姿勢が強く支持されています。

【児童アンケート】

*先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる。 **肯定的回答 92.1%**

*分からぬときは困ったときに、「教えて」「助けて」と安心してクラスの友だちや仲間をたよることができます。 **肯定的回答 86.3%**

*授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 **肯定的回答 85.6%**

*授業で、何を目標（めあて）にして学習しているのかわかっている。 **肯定的回答 88.3%**

*ペアやグループで話し合うと、授業の内容がわかりやすい。 **肯定的回答 89.2%**

児童アンケートでも、「できる」「わかる」と肯定的な回答をしている児童が多いのですが、約1割から1.5割の児童は否定的な回答をしています。教師主導の全体に向けた一斉指導をする授業も必要です。しかし、どうしてよいのか分からず、困っている子どもに対して、どのように個別指導をするのか、また、子ども同士で学び合い、互いに理解し合える授業づくりをするのかについては、今後の課題もあります。さらに、子ども自身が、「学び方を知る」ことも必要です。ただ答えを求めればよいのではなく、答えにたどり着くまでに、どのように考えるのか、これまでの知識を活用して解決できないかなど、子ども自身も毎日の学習を大切に、自ら学ぶ姿勢、問題解決をしようとするチャレンジ精神や粘り強さ等、学びに向かう姿勢を身に付けていくよう、学校と家庭が連携して、支援し指導することも重要だと考えています。

テーマ分析③ 「新しい学び」の実践と効果は、まだ十分に伝わっていない。

Q8 子どもが学習方法を選択できる場面がある



Q11 自己決定・自己判断できる授業に取り組んでいる



Q6 子ども同士で主体的に学び合う授業を行なっている



主体的な学びや学習方法の選択といった先進的な取組は、保護者の認知度にはばらつきがあります。「よくわからない」という回答の多さは、批判ではなく、学校の実践をより広く共有する必要性を示唆しているものと捉えています。

【児童アンケート】

*授業の中で興味があることやわからないことがあった時、自分の判断でタブレットを有効活用している。
肯定的回答 72.4%

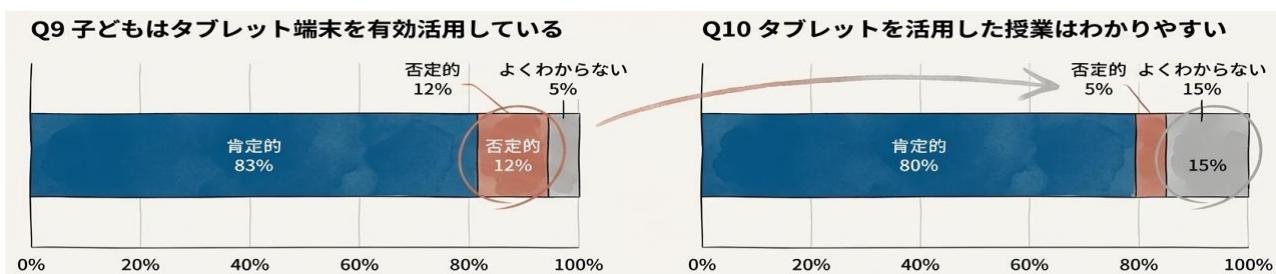
*タブレットを使って学習すると、わかりやすい。 **肯定的回答 86.1%**

*授業中、自分にあった方法や学び方を自分で選ぶ場面がある。 **肯定的回答 76.3%**

*課題や問題を解決するために、いろいろな方法を見つけて実行している。 **肯定的回答 80.4%**

コロナ渦を経て、枚方市においてもタブレット端末が普及し、毎日の学習活動において活用しているところです。鉛筆やノート等と同じく「文房具」として、子どもが、必要に応じて活用できるようにしています。これまででも、とりわけ、低学年を中心に、「ノートのここに書きましょう」「算数ブロックを出して、ここに置いて考えてみましょう」等、子どもたちが、先生の指示通りに活動することが求められる場面があります。しかし、いつまでも、「先生の言うとおりにしなさい」というだけでなく、学習活動の中で、自分は何をどこに書くのか、何を使って問題解決をするのかなど、子どもが自分で解決策を考える、選ぶことも重要です。これまでの学校内外での経験や体験を思い出し、「自分にとって今、何が必要なのか」を考えて取り組む主体的な姿勢が、将来に向けて必要です。また、自分で選び、決めたことで問題が解決できたりする経験も、子どもの「自己肯定感」「自己有用感」を高め、自信を持って挑戦していく大きな原動力の1つです。

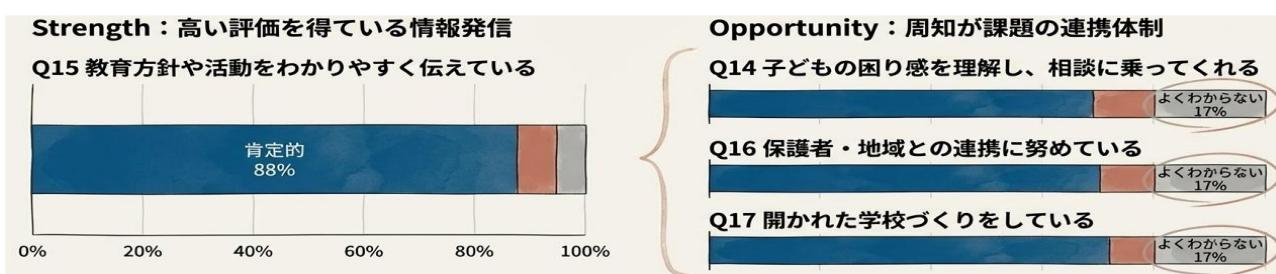
数10年前は、教師主導で、みんな同じように活動して知識を得る授業スタイルが主流だったと思います。しかし、今は、1つの教室の中で、子ども自身が自分に合った方法で学習をする場面も取り入れながら、子どもが自分なりに問題解決をしたり、自由に思いや考えを表現するなど、「個に応じた学びや活動」をしながら、今だけでなく、将来にも役立つ「学力」(点数で表せる力だけでなく、生きるために必要な様々な力)を身に付けられるような学習活動(授業)も重要だと考えています。次期学習指導要領も意識しながら、子ども一人ひとりが持つ力を伸ばす授業づくりにも、校内研修等にも力を入れながら取り組んでまいります。



タブレット端末の活用は、8割以上の保護者に認識されている一方、それが学習の分かりやすさにどう繋がっているか分からないと、評価が分かれています。「有効活用」に否定的な声(12%)と「分かりやすさ」への不明感(15%)をふまえ、今後の活用のあり方とともに、タブレット端末だけでなく、学校図書館等での図書の活用等、あらゆるツールを有効に活用する授業づくりを模索してまいります。

テーマ分析④ 学校からの情報発信は評価される一方、連携の仕組は更なる周知が必要

教育方針等の発信は保護者の皆様に届いていると捉えていますが、相談体制や地域連携といった「双方の関わり」については、まだまだ十分ではないと捉えています。支援等を必要とする子どもだけでなく、保護者も含めた家庭とつながる(連携する)仕組の周知に努める必要があります。



【児童アンケート】

*先生は困ったときにいつでも相談にのってくれる。(学習で分からないところを教えてくれる)

肯定的回答 85.1%

*困りごとがあるときに、先生や学校 にいる大人に相談できる環境がある。 **肯定的回答 79.3%**

*おうちの人や地域の人といっしょに、活動 したりすることは楽しい。 **肯定的回答 78.0%**

*自分は、まわりの人 (家族 や先生 、地域 の人)から大切にされている。 **肯定的回答 81.3%**

学校が、家庭や地域とつながり、子どもたちを「ともに育てる」ことにも視点をおいた取組が必要だと捉えました。今年度も、学校での授業に保護者や地域の方々にご協力いただいたり、保護者も含めた地域の方をゲストティーチャーにお呼びして出前授業に取り組んだ学年もあります。また、保護者からの個別の相談等に対し、学級担任だけでなく、学級担任以外の教員や SSW や SC 等の専門家が対応しています。さらに必要に応じて、関係機関につなげるなど、学校内外で包括的に対応していることもあります。

これからも、家庭や地域との連携が密になるよう、学習活動だけでなく、**子どもを真ん中に**置き、学校と家庭・地域が気軽に話せる場や機会を設定したいと考えています。

春日小学校の現在地 ⇒ 強固な基盤の上に、未来への可能性を築いていくところ

揺るぎない強み	確かな手応え	未来への可能性
 安全・安心の環境	 分かりやすい授業	 「新しい学び」の発信
 教員の熱意と努力	 学校からの情報発信	 双方向の連携強化
 児童の学校満足度	 タブレットの活用	 ICT 活用の効果実感

春日小学校の「これから」を 保護者や地域の皆様と ともに創っていくために ⇒ 3つの「対話」のテーマ

- 1 「新しい学び」の可視化**
問い合わせ;先進的な授業実践(主体的な学び、ICT 活用等)を、保護者や地域の皆様にどのように伝え、家庭での学びとつなげられるか?
- 2 「つながり」の深化**
問い合わせ;すべての保護者の皆様が、お子さんの健全な成長や育成について安心して相談できる体制をどのように広げていくのか?また、学校に関わってくださる地域の皆様ともどのようにつながっていくのか?
- 3 一人ひとりの「わかった」のために**
問い合わせ;春日小学校の強みでもある「安心感」と「教職員の熱意」をすべての子どもの「わかった」「できた」「がんばった」の達成感と ICT 活用、一人ひとりに応じた個別最適な学びや仲間との協働的な学び等、授業づくりとその効果実感をどうつなげるか?

今回行ったアンケートの結果は、春日小学校の現在地を示す地図であり、春日小学校の「これから」を導く羅針盤です。子どもたちの学校に対する「意識」とともに、保護者の皆様のお子さんの姿を通じて示していただいた「意識」を分析した結果をもとに、これからも、子ども一人ひとりのさらなる成長を願って、保護者や地域の皆様とともに、春日小学校をともに創りあげていきたいと考えています。

この3つのテーマについて、教職員間でも話題にし、令和8年度につなげてまいります。アンケートへのご協力に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。